

省庁別対策 講義レジュメ

CONTENTS 1.官庁訪問期間・ルールと省庁別特徴 2.官庁訪問で問われるもの 3.官庁訪問の準備・心構え

1 官庁訪問期間・ルールと省庁別特徴

□事前予約

＜期間＞ 6月1日（月）午前9時～6月9日（金）午後5時までの、各省庁の定める期間

＜方法＞ メール，Web システム等による申し込み

＜注意＞ 各省庁ごとに予約期間・申込方法が異なる。必ず確認すること。

□官庁訪問期間

6月12日(月) 午前8時30分から（第2クール以降は午前9時以降）

□官庁訪問時の訪問ルール

月 日	6/12 (月)	6/13 (火)	6/14 (水)	6/15 (木)	6/16 (金)	6/19 (月)	6/20 (火)	6/21 (水)	6/22 (木)
	第1			第2			第3		第4
A	○	×	×	○	×	×	○	×	○
B	×	○	×	×	○	×	×	×	×
C	×	×	○	×	×	○	×	×	×

①第1・第2クール

同一省庁に訪問日の翌日・翌々日は訪問不可

②第3クール

同一省庁に2日連続して訪問不可

③第4クール

任意の省庁に訪問OK

④内々定解禁

6/22(木)午後5時以降

□省庁別特徴

①文部科学省（令和5年度採用予定人数：31人※技術系含む）

省庁名	平成27年			平成26年			平成25年			平成24年			平成23年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
文部科学省	15	7	3	15	7	6	11	8	4	6	10	2	12	5	3

令和4年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
3	0	5	2	8

<事例：平成29年内々定者(教養区分)の訪問>

第1クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	—	—	集団面接	30分
2回目	初等中等教育局 児童生徒課	課長補佐	原課面接	20分
3回目	大臣官房 政策課	企画官	原課面接	20分
4回目	大臣官房 人事課	企画官	出口面接	5分

第2クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 国際課	課長	原課面接	50分
2回目	大臣官房 人事課	参事官	人事面接	30分
3回目	初等中等教育局 財務課	課長	原課面接	40分
4回目	生涯学習政策局 生涯学習推進課	?	ブース面接	20分

5回目	初等中等教育局 ? 課	参事官	ブース面接	30 分
6回目	文化庁	次長	原課面接	20 分
7回目	教育委員会(出向中)?	?	ブース面接	30 分
8回目	高等教育局 大学振興課	課長	原課面接	40 分
9回目	高等教育局 国立大学法人支援課	課長補佐	出口面接	5 分

第3クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	人事課	専門官	講演・座談会	90 分
2回目	グループディスカッション			95 分

<特徴>

①第1クールで集団面接が実施されることがある。

・集団面接：報告能力を見る試験

ポイント ① まずは質問に対する回答⇒次に理由づけ・エピソード←報告能力を見る

② 回答がかぶっても気後れしない⇒「先ほどのAさんと同じになりますが」

③ 他者の回答に対して無関心はダメ⇒反応してあげる

②出口面接での評価

・「非常に高く評価しています」という言葉

企画官ならば○ 専門官以下だと過信してはいけない。

③キーマンとの面談

・第1クール・第2クールで企画官に何度会えたかがポイントとも思われる（とりわけ出口面接）。

・途中のブース面接だと、落とされた人もいる。

④集合時間・待合室・その他

・第2クールから1軍と2軍に分けられる（集合時間・待合室が異なる）。

⇒2軍であっても、戦意喪失しないことがポイント。

・どちらかというと、素直な人＝刃向わない人を高く評価する傾向にあるとされる。

＜補足＞ 失敗例から学ぶ

- ・ 1 クールに 1 つずつの「失敗したなあ」という面接があった。
 - ①「スポーツ振興や生涯スポーツを国がやる意味があるのか」といった理念型の質問に答えられなかった。
 - ②「10 億円あったらどんな会社を作るか」といった変化球質問に答えられなかった。
 - ③問答の最後に、時間稼ぎのようなどうでもよい質問を多発してしまった。
- ・ 志望順位や他省庁との関係をうまく説明できなかった。
- ・ 控え室で訪問者どうしで雑談をしていたら、盛り上がってしまい「もっと静かにしなさい」と注意を受けた。
- ・ 回答に対して、「正しいが、教科書的でオリジナリティがない」と指摘された。

②厚生労働省（令和5年度採用予定人数：36人※事務系）

省庁名	平成27年			平成26年			平成25年			平成24年			平成23年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
厚生労働省	20	20	5	17	10	8	14	9	8	12	4	4	16	11	0

令和4年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
4	6	7	4	13

<事例：平成29年内々定者(教養区分)の訪問>

第1クール 2日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	労働基準局	課長補佐	ブース面接	30分
2回目	保険局	課長補佐	原課面接	70分
3回目	大臣官房 総務課	企画官	ブース面接	30分
4回目	保険局 医療課	室長	原課面接	80分

第2クール 2日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	社会援護局 地域福祉課	室長	原課面接	80分
2回目	職業安定局 雇用保険課	課長補佐	ブース面接	70分
3回目	職業安定局 雇用保険課	?	原課面接	60分
4回目	内閣参事官		ブース面接	60分

第3クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	労働基準局	課長補佐	ブース面接	5分

<特徴>

- ・訪問者数が多いため、原課面接は地図を頼りに一人で行かなくてはならない。
 - ・出口面接は評価の低い順に呼ばれるので、自分の立ち位置は分かりやすい。
 - ・守備範囲が広い官庁なので、その政策一つ一つではなく、「いろいろな立場の人に対する理解」を持っているかどうかのカギとなる。
- ⇒厚生分野3テーマ、労働分野3テーマは関心事項として持っておきたい。

<失敗例から学ぶ>

- ・パーソナルな経験に基づく意識がなかったことが原因。それがなければ、ずば抜けた長所やプレゼンテーション能力がないと無理ではないか。
- ・政策に関して、どのような思いでそのような問題意識を抱くに至ったかを示すことができなかった。
- ・熱意を第 1 クールで示すことができなかった。

③内閣府（令和 5 年度採用予定人数：14 人※技術系含む）

省庁名	平成 27 年			平成 26 年			平成 25 年			平成 24 年			平成 23 年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
内閣府	不明			不明			9	4	2	不明			5	?	?

令和 4 年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
1	1	5	3	4

<事例①：過去(平成 29 年)の内々定者(法律区分)の訪問>

第 1 クール 3 日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1 回目	大臣官房	副大臣秘書官	ブース面接	20 分
2 回目	人事課	課長補佐	小部屋面接	20 分
3 回目	子ども・子育て本部	課長？補佐	ブース面接	25 分
4 回目	大臣官房(政府広報室)	課長？補佐	ブース面接	20 分
5 回目	男女共同参画局	参事官	大部屋単独面接	20 分
6 回目	元人事課	企画官	大部屋単独面接	20 分
7 回目	人事課	課長補佐	出口面接	10 分

第 2 クール 3 日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1 回目	共生社会政策担当 (障害者施策担当)	課長補佐	ブース面接	25 分
2 回目	共生社会政策担当 (子どもの貧困対策担当)	課長補佐	ブース面接	30 分
3 回目	内閣官房 内閣人事局	課長？補佐	ブース面接	20 分
4 回目	グループディスカッション			45 分
5 回目	人事課	係員	出口面接	5 分

第3クール 3日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	—	係員	入口面接	5分
2回目	人事課など	課長？補佐など	3対1面接	15分
3回目	大臣官房	副大臣秘書官	講話	60分
4回目	人事課	企画官	講話	30分
5回目	人事課	企画官 ＋課長補佐	出口面接	5分

<事例②：過去(平成28年)の内々定者(経済区分)の訪問>

第1クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	—	係員	入口面接	5分
2回目	経済社会システム	課長補佐	小部屋面接	20分
3回目	経済財政分析	課長補佐	ブース面接	20分
4回目	人事課	企画官	小部屋面接	15分
5回目	共生社会政策	課長補佐	ブース面接	40分
6回目	経済社会総合研究所	課長補佐	ブース面接	25分
7回目	—	係員	出口面接	5分

第2クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目		係員	入口面接	5分
2回目	集団討論			40分
3回目	経済財政分析	課長補佐	ブース面接	40分
4回目	経済社会総合研究所	課長補佐	原課面接	40分
5回目	人事課	課長補佐	小部屋面接	10分
6回目	経済財政分析	参事官補佐	原課面接	35分
7回目		参事官	小部屋面接	70分
8回目	人事課	企画官	出口面接	10分

第3クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目		係員	入口面接	5分
2回目	グループ面接			30分
3回目	人事課	企画官	出口面接	10分

<特徴>

- ・出だして高い評価を受けると、後が楽になる省庁の一つ。

平成 25 年は、「高く評価しています」という言葉を連発して、志望者のつなぎ留めをした例もある省庁なので要注意。

- ・他省庁と迷っていると、第 2 クールあたりで、**企画官**による 3 回連続面接という**引き留め工作**もアリ⇒こうなった場合には、内々定はほぼ確実と考えよう。
- ・所掌事務の広さから「何でもやる」という職業的好奇心が大切。

<失敗例から学ぶ>

・クールの 3 日目だったこともあり、疲れからか、自己 PR を積極的にできなかった。
 ・「これをやりたい」ではなく、「何でもやります」というスタンスを示すことができなかった⇒
 「内閣府は政治からの指示がないと何もできない。何かこうしたいという気持ちの人は向いていない」と面接官に諭された。

④公正取引委員会（令和 5 年度採用予定人数：8 人※事務系）

省庁名	平成 27 年			平成 26 年			平成 25 年			平成 24 年			平成 23 年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
公正取引委員会	不明			不明			不明			2	2	1	不明		

令和 4 年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
4	0	2	0	0

<事例：過去(平成 29 年)の内々定者(院卒行政区分)の訪問>

第 1 クール 2 日目

	部署	役職	形式	所要時間
1 回目	企業結合課	?	原課面接	60 分
2 回目	企画室	課長補佐	原課面接	80 分
3 回目	総務課	課長補佐	原課面接	90 分
4 回目	国際課	課長補佐	原課面接	60 分
5 回目	人事課	総括課長補佐	出口面接	20 分

第2クール 2日目

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	取引企業課	課長補佐	原課面接	60分
2回目	審査局	課長補佐	原課面接	60分
3回目	経済取引企画室	課長補佐	原課面接	60分
4回目	経済取引企画室	企画室長	原課面接	60分
5回目	取引企画課	課長補佐	原課面接	60分
6回目	審査局	企画官	管理職面接	60分
7回目	審査局	企画官	管理職面接	60分
8回目	人事課	課長補佐	出口面接	60分
9回目	人事課	総括課長補佐	出口面接	20分

第3クール 1日目

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	人事課	課長	管理職面接	20分
2回目	人事課	総括課長補佐	出口面接	20分

<特徴>

- ・独禁法の主な内容(というよりも問題意識)は知っておいた方がよいだろう。
- ・大きな省庁ではなく、チームで仕事をするので、個性よりも協調性重視の官庁である。

⑤総務省（行政管理）（令和5年度採用予定人数（全区分）：70人※技術系含む）

省庁名	平成27年			平成26年			平成25年			平成24年			平成23年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
総務省(行政評価)	不明			9	1	0	不明			不明			不明		

令和4年度の区分別採用人数（自治・ICT・行政管理（事務系））

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
6	5	13	8	12

<事例：平成29年内々定者(経済区分)の訪問>

第1クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 秘書課	?	入口面接	5分
2回目	情報通信国際戦略局 通信企画課	係長	原課面接	40分
3回目	大臣官房 秘書課	企画官+課長補佐	人事面接	25分×2
4回目	内閣官房 内閣人事局	参事官補佐	原課面接	40分
5回目	行政管理局 行政情報システム企画課	課長補佐	原課面接	50分
6回目	大臣官房 秘書課	?	出口面接	5分

第2クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 秘書課	?	入口面接	5分
2回目	大臣官房 秘書課	企画官	人事面接	35分
3回目	行政評価局 政策評価課	課長補佐	原課面接	60分
4回目	行政管理局	副管理官	原課面接	70分
5回目	内閣府 地方分権改革推進室	参事官補佐	原課面接	55分
6回目	内閣官房 内閣人事局	企画官	原課面接	50分
7回目	大臣官房 秘書課	企画官	人事面接	15分
8回目	大臣官房 秘書課	?	出口面接	10分

第3クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	大臣官房 秘書課	?	入口面接	5分
2回目	行政管理局	副管理官	原課面接	60分
3回目	統計局	課長補佐	原課面接	60分
4回目	行政評価局 政策評価課	課長補佐	原課面接	45分
5回目	大臣官房 秘書課	企画官+課長補佐	出口面接	10分

<特徴>

- ・事後的な政策提言をする省庁なので、**様々な政策に関する好奇心**が要求されるのではない。
 - ・細かなデータを読み解くことが好きな人が向いている職務内容ではない。
- ⇒会計検査院の政策バージョンと考えてもよさそう。

⑥人事院（令和5年度採用予定人数：5人※技術系含む）

省庁名	平成27年			平成26年			平成25年			平成24年			平成23年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
人事院	不明			不明			不明			不明			不明		

令和4年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
1	1	2	0	1

<事例：過去(平成29年)の内々定者(法律区分)の訪問>

第2クール 3日目

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	国家公務員倫理審査会	係員	業務説明	60分
2回目	職員福祉局	係員	業務説明	60分
3回目	人材局	課長補佐	原課？面接	60分
4回目	職員福祉局	課長補佐	原課？面接	60分
5回目	人事局	課長補佐	原課？面接	60分
6回目	人事課	室長	人事面接	60分
7回目	人事課	室長	人事面接	40分
8回目	人事課	企画官	出口面接	20分

第3クール 1日目

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	人事課	企画官	人事面接	10分
2回目	公平審査局	課長補佐	講演	60分
3回目	人事課	課長補佐	出口面接	10分

<特徴>

- ・第1クール初日は危険という噂？があるが、そのようなことはないという evidence はない。
- ・人事行政に対する知識は不要だが、業務内容を知らずに行くのは失礼なので、せめてパンフレットなどは熟読しておきたい。
- ・人事院の存在理由でもある**公正・中立**というものに対する意識が重要。

⑦会計検査院（令和5年度採用予定人数：5人※技術系含む）

省庁名	平成27年			平成26年			平成25年			平成24年			平成23年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
会計検査院	不明			1	0	1	2	1	1	不明			?	?	1

令和4年度の区分別採用人数（事務系）

院卒行政	政治国際	法律	経済	教養
0	0	3	1	0

<事例：平成29年内々定者の訪問(経済区分)>

第1クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	—	?(若手)	入口面接	10分
2回目	—	?(中堅)	原課面接	20分
3回目	人事課	係長	人事面接	15分
4回目	—	?(中堅)	原課面接	30分
5回目	人事課	課長補佐	人事面接	20分

第2クール 1日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	法規課	課長補佐	原課面接	15分
2回目	人事課	課長補佐	人事面接	20分
3回目	人事課	企画官	人事面接	15分
4回目	人事課	課長	人事面接	15分

第3クール 2日目訪問

	部署	役職	形式	所要時間
1回目	—	課長	面談	30分
2回目	—	副長	個別面接	120分

<特徴>

- ・第2クールで、1軍部屋が創設される。
- ・第2クールで切られて打ちひしがれているところに訪問を促す電話がかかり、第3クールから始動して内々定まで行った人がいる官庁(平成23年 現在の流れだと第2クールから)。
- ⇒「よくわからない役所なので来てみた」と言っている内々定が出た。
- ⇒わからないところを徹底的に究明しようと、疑問をぶつけていたところが評価されたのではないかな。
- ・「無駄を省き、効率的な行政を実現する」という価値観が大切。

2 官庁訪問で問われるもの

大切なのは…

自分の目指すべき社会とそれを実現するためにその省庁の政策に携わることがどういう意味を持つのか。

ということで…

大きな議論のために、「これまでの我が国の社会」、「これからの我が国の社会」について考えてみよう。

①「これまでの我が国の社会」

・成長⇒成熟へ

②「これからの我が国の社会」

・成熟⇒安定（ないしは更なる成長）なのか成熟⇒衰退なのか

☆衰退を招く要素は？

☆衰退ではなく安定（ないしは更なる成長）を迎えるために何をすべきか？

⇒志望する省庁の仕事で、どのように安定（ないしは更なる成長）を迎えていくのか？

結局は…

成長 ⇒ **成熟** ⇒ **安定**

3 官庁訪問の準備・心構え

□官庁訪問の「格」の有無

省庁名	平成 27 年			平成 26 年			平成 25 年			平成 24 年			平成 23 年		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
外務省	21	5	1	24	2	0	23	3	0	16	4	0	21	3	2
環境省	不明			5	4	3	5	3	2	5	0	1	3	3	0
金融庁	不明			5	2	2	7	4	1	6	3	1	不明		
経済産業省	20	7	0	23	3	0	20	4	1	19	3	0	19	4	1
警察庁	不明			不明			不明			不明			不明		
厚生労働省	20	10	5	17	10	8	14	9	8	12	4	4	16	11	0
国土交通省	15	9	6	17	8	4	17	8	4	15	3	7	10	9	6
財務省本省	不明			12	11	0	15	5	2	9	7	2	不明		
総務省(自治)	不明			不明			16	1	1	24	6	3	27	4	4
内閣府	不明			不明			9	4	2	不明			5	?	?
農林水産省	12	2	5	6	6	5	7	3	5	8	3	0	7	7	3
法務省	不明			不明			12	7	7	不明			2	1	1
防衛省	不明			9	2	0	12	1	0	8	4	0	5	5	1
文部科学省	15	7	3	15	7	6	11	8	4	6	10	2	12	5	3

□どのクールが重要か？

- ・どの内定者に聞いても、**第 1・第 2 クールが重要**と言う。
- ・やはり何事も**最初が肝心**で、後からの挽回は結構難しい模様。

□官庁訪問の準備前に明確にしたいこと

◇一般的に質問されること(訪問カードに記載する)

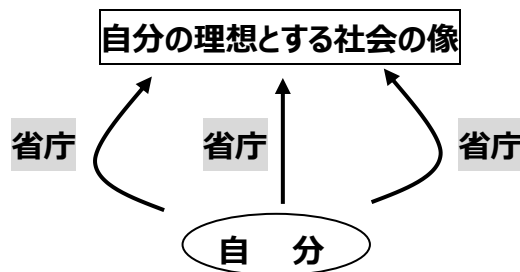
- ①「志望動機」
- ②「興味のある職務」
- ③「官庁の志望順位」
- ④「これまでに力を注いだこと」
- ⑤「最近の関心ある出来事」
- ⑥その他（「長所」「短所」「趣味」「大学の成績」「資格」など）

□官庁訪問の準備に向けた段取り

①志望動機

自分が作りたい社会の社会像という**国家総合職志望の必然性**に絡めて、**その省でする仕事にどのような意義を感じるか**というその省庁の**必然性**を考えたい。

⇒**なぜ？いつごろから？**といったところから考察して行こう。



②興味ある職務

各官庁の政策等も絡めたいところ。政策については、**白書や HP、説明会の配布資料、新聞記事**などをもとに、特に自分が関心のある分野 3 ～ 5 つについて調べて自分の意見を言えるようにしておくべき。

③官庁の志望順位

第一志望が基本だが、第 1 クール 2 日目・3 日目で「第一志望」はありえない。要は、自分を「一緒に働きたい人だ」と思わせれば、向こうは自分の官庁を第一志望にするように説得してくる。

④これまでに力を注いだこと

人事院面接対策でじっくり考え、言語化したはずの部分

⑤最近の関心ある出来事

- ①や②とも絡まること。

⑥自己PR

P R = Public Relations = 「売り込み」

⇒自分を**その官庁の職員**として「売り込む」ことを考える

=「これから」どのように自分の売りを活かすことができるのか = できる中心

×「過去の実績」ばかりを売り込む

ex.サークルの副幹事長・アルバイト先のバイトリーダー ⇒ 「これから」が見えない

構成

- ① : 自分の売り⇒過去の事実(簡潔に)から導かれる長所・学んだこと
- ② : その官庁の仕事⇒自分の考える**公務員像**
- ③ : ①を②にどう活かすことができるのか